

つなぐ つたえる 地域農業

2021年2月10日発行

No.30

十日町市農業委員会

妻有のきずな

十日町市農業委員会だより



自分らしさで お客様と向き合う

吉村さんちのお米

吉村 志織 (33)

よしむら

しおり

2012年に結婚し、十日町市中条へ。その翌年、夫の祖父から田んぼを受け継ぎ、夫と共に農作業に従事する志織さん。もともとサーフィンが大好き。体を動かすことと、自然が好きだったため、なんのためらいもなく農業へ。

日々の農業について「日常的でありながら非日常。あちこち動き、いろんな人と会話もできるところが楽しい」と話してくれた。

現在、生産したお米の一部は「吉村さんちのお米」としてオリジナルパッケージで、ネットを通じて直販を実施。お客様とのコミュニケーションも、明るく社交的な志織さんの役目だ。とても意欲的で、現在は十日町市と津南町の農業女性で結成される women farmers japan (ウーマンファーマーズジャパン) の一員として、農業経営を学んでいる。目標は、直販の売り上げアップと作付け面積の拡大とのこと。現在、田んぼの作業受託や作付けの依頼も積極的に募集しているとのことなので、ぜひご興味ある方は、右QRコードより、ご連絡を!



LINE@



Instagram



多様化する地域の課題に対して 新規就農・参入の積極的な促進を

■年頭のご挨拶



会長
村山 隆義

向春の候、新たな年を迎え、皆様がますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大で、生活様式が一変した年でした。三密を避ける、ソーシャルディスタンスを取るということとで各種イベントや祭事などが中止され、多方面に影響、被害が出ました。しかしながら、いまだ終息の気配もなく不安な年明けとなりました。

また年末寒波による豪雪では、大変難儀されたのではないでしょう。近年は、気候変動により農産物に影響が出ていますが、変動に耐えられる技術や土づくりが求められています。生産者の「需要

に応じた生産・品質向上」により選ばれる産地を目指し、激しい産地間競争に生き残っていかなくてはなりません。二十一年産米については、需給と価格の安定が崩れ危機的な状況に陥りかねないとの指摘もあり、水田作付け転換強化を打ち出しています。今後は園芸作物の導入など、複合化による経営の安定が求められています。

さて、私も農業委員会は、遊休農地の発生防止・解消、農地利用の最適化の推進、利用集積・集約化など「人・農地プランの実質化」に取り組んでいるところです。今後も多様化する地域の課題に対応した、新規就農・参入の促進などに積極的に取り組み、見える農業委員会、行動する農業委員会を目指し、農地パトロールの強化により、今後残すべき農地の選択もしていかなくてはなりません。ご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

コロナ禍の終息を願い、本年も皆様健康に留意され、災害もなく、穏やかで稔り多き年でありますようお願いしております。

農業者年金のご案内

60歳未満、国民年金第一号被保険者、農業従事日数60日以上なら、誰でも加入できます。詳しくはお近くの農業委員会またはJAへ！



5つの特徴

- ①一定要件を満たす担い手には、**保険料を国が一部補助**
- ②支払金額を**2万～6万7千円の間で自由に**決められる
- ③**いつでも**脱退、加入可
- ④原則 **65歳から生涯**受け取れる。（仮に80歳前に亡くなった場合でも、死亡一時金として遺族に支払われる）
- ⑤**積立式**だから、自分の払った分が年金となる



令和二年度新潟県農業委員会大会が十一月十九日に燕三条地場産業振興センターで開催されました。新型コロナウイルス対策を徹底し例年より規模を縮小して、農業委員会憲章の斉唱やガンバロウ三唱といった出席者全員で大きな声を上げることもできず、静かな大会となりました。

大会では聖籠町と妙高市の農地利用最適化の取組み事例が報告されました。聖籠町蓮潟地区では平成二十九年度に地域集積協力を活用し一七〇haの農地(田)を集積し、さらに令和二年度四〇haの農地(主に畑)を農地中間管理機構に貸付し、機構関連農地整備事業に取組んでいるということです。

十日町市でも「人・農地プラン」の実質化に向けた取組として、五十年後の農地利用に関するアンケート調査が実施され、それに基づいて、地域の農地の所有者などの年齢や後継者の有無を見える化、地図化しています。それをもとに

地域での話し合いが進められていくので、農業委員・推進委員が参考事例や話題を提供できるように情報収集に努めていければと感じました。



大会の様子

今年度、永年勤続表彰を受けられた委員をお知らせいたします。農業委員、農地利用最適化推進委員として永年にわたり農業委員会活動に御尽力いただきました。

【事務局】

表彰区分	委員氏名	地区
通算 20 年以上	山家 勝一	川 西
通算 15 年以上	相澤 成一	松之山
	村山 隆義	十日町
	須藤 英雄	中 条
	村山 幸夫	松之山
3 期連続 (1 期 3 年)	菅井 太一	松 代
	水品 正幸	川 西
	高橋 勝則	川 西

農地等利用最適化推進施策に関する意見書を提出しました



関口市長へ意見書を手渡しました。

令和二年十月三十日に担い手育成、農地利用集積・集約対策、中山間地等地域対策、農業経営等への支援対策などについてまとめた「農地利用最適化推進施策に関する意見書」を市に提出しました。

農業委員会からは、村山会長ほか役員三名が出席し、委員会活動の中で農業者から受けた意見などを踏まえ、各種補助事業の拡充など十日町市独自の施策への取組について、関口市長に要望し、意見書を手渡しました。

農地の改良・転用、気をつけて！



●農地（田・畑）を改良するときは届出をお願いします。

農家のみなさんが耕作の利便性を向上させる目的で、地盤のかさ上げや農業用機械の乗入れ口を整備するなどの農地改良や造成工事を行う場合には、「農地改良届出書」の提出をお願いします。

●農地の転用とは？

農地を住宅、資材置き場、駐車場など農地以外の用途に変更することです。

農地を転用するには、許可申請または届出の手続きが必要です。（一時転用含む）

●許可を取らずに転用したら？

無断で農地転用すると、3年以下の懲役又は300万円以下の罰金が科せられる可能性があります。

（法人は一億円以下の罰金）



農地パトロールの様子

問合せ

お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員、または農業委員会事務局まで。

かがやく 新規就農者たち

高橋 真紀子（北新田）

目指せ、若者雇用！



令和二年三月に新規就農した高橋真紀子です。

私は親が農家だった訳でもなかったのに、農地なし、農機具なし、ついでに貯金もなしという「ないないづくし」でのスタートでした。近所の人に空いている農地をお借りし、農機具は同じ地域の先輩農家さんからお借りし、あまりお金をかけることなく、一人農業をスタートしました。私の農業生活はご近所さんや先輩農家さんの助けがあったからこそその一年でした。

そしてこの一年で気付いた事は、一人より二人という事です。初年度だから周りの皆さんが助けてくれましたが、高齢化も進んでおり、いつまでも甘えている訳にもいきません。

これからは、私が高齢になっていく農家さんを助けていける様になくしてはならないと思っています。

そして、そのために法人化をし、若者の雇用につなげます。必ず！



山家 悠平（木落）



ホップを通じて 地域を元気に！

川西地区木落の米農家の長男です。小さい頃は野球少年でした。新潟大学で農業と中国語を学び、大学院在学時には中国に一年間留学したりもしました。

卒業後はアメリカ系の化学会社等で三年ほど働いていましたが、実家に戻って農業や教育、観光などを通じて地域活性化にかかわりたいと思い仕事をやめ、アメリカ農業研修プログラムに参加し、オレゴン州のホップ農家で約一年の研修を行いました。研修修了後は実家に帰り米とホップ、神楽南蛮を育てています。また、乾燥ホップ、ホップの苗や十日町産ホップのビール、サイダーなどの販売やホップを育てたい人向けのコンサルタントも行っています。

十日町にはビールの醸造所が二つもあり、県内の醸造所の数も増えているのでホップ農家としてビールやホップを通じて地域を盛り上げたいです。また、どぶろくと農家民宿にも興味があるので、醸造免許を取得して自分が育てた米で甘酒やどぶろくを作りたいと考えています。

丑年まれの年男からひとこと



上村 晴彦

農地利用最適化推進委員
(吉田地区)

今期より吉田地区の農地利用最適化推進委員になりました。

高校卒業後27年間この地を離れていましたが、農業に従事したくUターン、2シーズンが過ぎ農作業にも体が慣れ、高校卒業までの18年と合わせてやっと十日町生活も成人となりました。

推進委員となり農地パトロールや仕事の兼ね合いで山間地に入りましたが、なんと耕作放棄地の多いこと、先代の方々が苦勞して開墾し守ってきた地がこれでは？と考えさせられました。しかも高齢化が進み、吉田地区では65歳以上の耕作者が60%を超え、担い手問題もあり、益々耕作放棄地が発生するのではと危惧しております。

推進委員、農業者としてもまだまだ未熟なため地域の方々とも話し合いの機会を持てておりませんが、地域農業発展の為にも積極的に意見交換を行い少しでもお役に立てるよう頑張ります。



村山 進一

農地利用最適化推進委員
(川西地区)

コロナ禍の中、お陰様で元気で新しい年を迎えられたことに改めて感謝しています。コロナウィルス感染防止のために、自助努力も求められると感じています。

昨今の農業者の高齢化で、住宅周辺でも耕作放棄地が増えつつあります。昨年秋に相談を受けた中で、畑作ができなくなったがどうしたら良いのかと。難題の問いかけでした。住宅周辺の農地は狭く大型機械が入りにくい環境が多いことから、農業法人等においても引き受けてもらえないのが実態と思います。

荒らすことになるとタヌキ等のすみかになり、生活にも危害を与えかねません。私のトマト畑も毎年被害を受け、網をかけ糸を張り対応しています。このことは、他人事ではなく地域住民はじめ、農業委員会でも真剣に取り組む課題であると思います。



内山 浩樹

農地利用最適化推進委員
(川西地区)

今期から農地利用最適化推進委員になりました内山です。昨年はコロナウィルス一色の一年でした。暗い話題ばかりで、様々な問題も多く出てきています。農家の方はコロナの他にも後継者不足、作物の単価の下落などの農業特有の問題にも対応していかなければなりません。一瞬で解決出来ることではありませんが丑年らしく一歩づつ、それこそ牛歩の如くでも前進するお手伝いが出来ればと考えております。

今年で4回目の年男になりますが、地域ではまだ若手だとはっばをかけられています。確かに周りを見わたすと高齢の方が毎日畑や田んぼの世話を文句も言わずしています。それらを見て改めて先輩や先人達に頭が下がります。その大事にしてきた農地が荒地にならないように、そして農業という産業がこれからも継続して行える様に活動できればと思います。

身体はあちこち痛くなるかもしれませんが、心はいつまでも若手の気持ちを持って頑張っていけたらと思います。

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により様々な面で影響があり、農業にとっても米価の下落、米需要の低下など厳しい状況となりました。今年こそは東京オリンピックが開催され、地元出身選手が活躍することを期待し、明るい話題が多くなる年になればと願っています。【事務局】

農地のお悩み相談は、お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員、または農業委員会事務局まで。

十日町市農業委員会事務局

本局（中里）763-2515（直通） 十日町事務所 757-3286（直通） 川西事務所 768-4951（地域振興課直通）

松代事務所 597-2222（農林建設課直通） 松之山事務所 596-3132（地域振興課直通）

発行：十日町市農業委員会 編集：情報部会 印刷：アートプラザムラヤマ